



「リサイクルプラザで見た廃棄自転車はまだ使えるはず」。
 丈山小学校の4年生95人が古い自転車を再生させようと、自転車店経営神本達夫さんと工業デザイナー大藪弘隆さんの協力を得て、計3台のソーラー自転車を見事に完成させ、この日試乗会が行われました。
 大藪さんは、「パネルに日が当たるとすぐに力となって、加速します。そのとき、太陽のエネルギーを体で感じてもらえるはず。こうしたところから子どもたちが自然の力について考えてもらえればうれしいですね」と話していました。

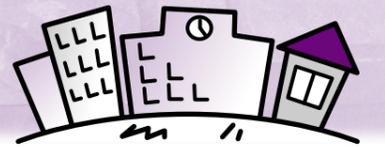
7/18 「太陽」の「カ」と「入」の「バランス」で進む

7/21 デンマークから音楽のプレゼント



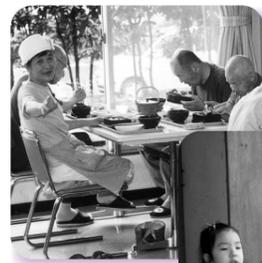
デンマーク・ヘルシンゴー市から女子マーチングバンドが来日し、デンパークで安城学園高校吹奏楽部とのジョイントパレードを行いました。
 同市はコペンハーゲンから約50km北にある港町。バンドは世界各国でコンサートを行い、衣装や音楽性など高い評価を受けています。
 今回は15～19歳の約70人で編成され、慣れない炎天下の気候の中、素晴らしい演奏を披露してくれました。

わがまち フォトグラフ



7/13 うなぎと小唄の慰問

土用の丑の日を前にしたこの日、養護老人ホームに、御幸本町のうなぎ屋さんからうなぎ丼が届きました。
 店自慢のうなぎ丼をごちそうするという恒例行事は、昭和53年に始まり今年で25回目。今回は、食事の前に店主太田享秀さんの妻尚子さんと長女明紗白ちゃんによる小唄の披露も。ホームの皆さんは、うなぎと両方楽しんで大満足の表情を浮かべていました。



8/4 からくり人形の「理由なき反抗」?

歴史博物館で好評開催中の企画展「再現からくり人形」の催しの一つとして、「からくり人形劇」が開催されました。
 当初、予定していた「茶運び人形」がまったく動かないハプニングに会場が大きな笑いに包まれる場面もありましたが、急きょ、展示中の人形がその代役を見事に務め、本来の仕事ぶりを披露しました。



8/6 本当のバリアフリー社会

市内小中学校の特殊学級の児童生徒が一同に会し、歌やゲームなどを楽しむ交歓会が市体育館と青少年の家で行われました。
 担当の先生は、「今日はのびのびとして本当に楽しんでいきます。こうした楽しさの中から集団生活のルールやマナーを学んでくれるはず。すべての人が障害を理解し合うことができれば、「障害」という言葉はなくなるでしょう」と話していました。



7/21 ダンスパフォーマンスがかけめぐる

同じく企画展「再現からくり人形」の記念イベントとして、「か・ら・だ」と題するダンスパフォーマンスが行われました。
 演じたのは、モダンダンサー野々村明子さんと「踊る仲間」の総勢11人。歴史博物館の石舞台、庭園、エントランスホール、時には池の中をも使うという今までにない演出で、つめかけた観客をあっという間に驚かせていました。

